

令和元年度日本体操学会公募研究プロジェクト報告書

研究題目 中学校における体づくり運動の教材開発

研究者氏名(所属) 鈴木 慶子(駿河台大学)、三宅 良輔(日本体育大学)

報告

1. 目的

本研究では、中学校の保健体育科教員が積極的に実施できる「体づくり運動」の教材の開発、そして取り扱う運動の提案をし、その授業の実践を形式的授業評価やインタビュー調査などを通して考察し、現場の保健体育科教員に体づくり運動の実施を促す一助とすることを目的とした。

2. 方法

最初に、Google フォームを用いて体育系学部に通う大学1年生を対象にアンケート調査を実施した。研究者2名で、新学習指導要領の内容と照合しながら、表の通り、授業単元を7時間とした体づくり運動の教材を考案した。この考案した授業を東京都内の中学校にて、2019年11月21日より12月24日の間実施した。授業は、単元1時限目から4時限目までは道具を使わないで行う運動、単元5時限目から7時限目までは縄やボールなどの道具を使った運動を取り入れた。授業は中学校の体育教員が自ら行い、事前に運動内容の説明が書かれたパワーポイントと運動の動画を確認させた。また、担当教員が授業中に指導に困った際は、生徒に直接動画をみせて運動を実施できるようにした。調査対象は中学校2年生85名、1年生99名の計184名であった。毎授業後には高橋ら(1994)が開発した形式的授業評価票を用いて授業評価を実施し、全授業後には更に全授業に対する授業評価の質問事項を加えたアンケートも実施した。

3. 結果および考察

体づくり運動の先行研究では、「上手な指導法がわからない」「1時間もたない」などの教員の苦悩が指摘されていた。報告される体づくり運動の実践は、単調なトレーニングやストレッチを取り扱う授業が多く、課題とされていた。実際に本研究で行ったアンケートの「体づくり運動を中学校および高等学校の体育実技で行いましたか」という質問に対して、「経験がある」と回答した学生は約31%にとどまり、その低調ぶりが明らかとなった。

本研究で提案した単元では、毎授業異なる教材を設定した。1限目の巧緻性チャレンジ運動、2限目の2人組のペア運動、3限目の音楽を使った運動、4限目の3人組以上のグループ運動、

5限目の縄を使った運動、6限目のGボールを使った運動、そして、7限目のボールを使った運動である。これらの教材で単元全体を通して共通している特徴は、体の動きの要素を先行させるのではなく、系統性のある様々な運動、体操に取り組む中で高めたい動きを身に付け、気づき・交流といった体ほぐしもできるようにした点にある。単元計画と運動を提案した結果、体づくり運動の授業を単元として行った経験のない中学校の教員でも、研究者が提案した運動例の動画を用いながら、単元7時間の体づくり運動の授業を行うことができた。

図は毎授業後に実施した形式的授業評価の結果である。本授業では単元を通して高い水準を保つことができた。特に意欲・関心の次元は最低でも2.88と非常に高い評価だといえる。特に4時限目が2.92、6時限目は2.93と高かった。6時限目はGボールを扱った授業で、生徒にとってすべての運動が初体験で珍しい運動の連続だったため、特に印象に残ったようだ。

表. 提案した単元計画

1限目	2限目	3限目	4限目	5限目	6限目	7限目
体づくり運動のねらいや目標の確認	本日のねらいや目標の確認 & 準備運動 前時の復習)					
巧緻性チャレンジ運動	2人組のペア運動	音楽を使った運動	3人組以上のグループ運動	縄を使った運動	Gボールを使った運動	ボールを使った運動
本時の振り返りまとめ						本単元のまとめ
学習内容						
気づき 巧みな動き 力強い動き	気づき 交流 柔らかな動き 巧みな動き 力強い動き	気づき 交流 柔らかな動き 力強い動き 動きを持續する	気づき 交流 柔らかな動き 巧みな動き 力強い動き 動きを持續する	気づき 交流 柔らかな動き 巧みな動き 動きを持續する	気づき 交流 柔らかな動き 巧みな動き 力強い動き 動きを持續する	交流 柔らかな動き 巧みな動き 力強い動き

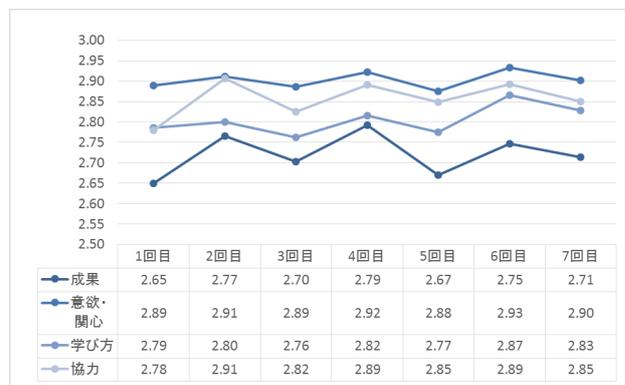


図. 形式的授業評価の結果